



我が国の対南スーダン平和構築支援 －現場からの視点－

前駐南スーダン大使 紀谷昌彦

日本国際平和構築協会 第28回研究会セミナー
2018年1月29日 於東大駒場キャンパス

全体の構成

1. はじめに：今なぜ南スーダンなのか
2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか
3. 我が国の支援：何が強みなのか
4. おわりに：これからの課題は何か

1. はじめに：今なぜ南スーダンなのか

- 自衛隊部隊の国連 P K O 派遣，新任務付与，撤収等が広く報道
⇒ 我が国の国際平和協力のあり方が課題に



(写真提供：UNMISS)

- 世界最大規模の人道危機（避難民発生等）が継続，政治プロセスに国際社会が関与
⇒ 我が国の人道・開発支援，政治プロセスへの関与のあり方も課題に

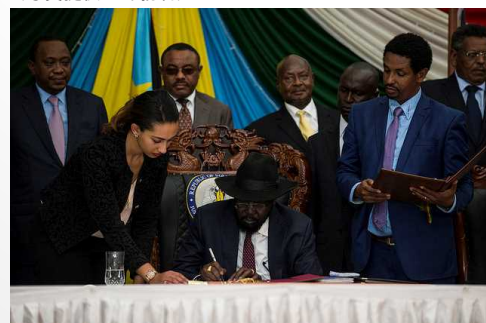


2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (1) 経緯①

- 1954年～2005年 第一次・第二次内戦
- 2005年 包括和平合意（CPA）
- 2011年7月 南スーダン独立
- 2013年12月 政治危機発生
- 2015年8月 衝突解決合意



(写真提供：外務省)



(写真提供：UNMISS)

2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (1) 経緯②

- 2016年4月
国民統一暫定政府設立
- 2016年7月
ジュバ衝突
- 2016年8月
地域保護部隊派遣決定
- 2016年9月
安保理ミッション・ジュバ訪問
- 2016年12月
国民対話構想発表
- 2016年12月
安保理制裁決議案否決



(写真提供：UNMISS)



(写真提供：UNMISS)

2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (1) 経緯③

- 2017年1月
新SRSG着任，国連・
AU・IGAD首脳会合
- 2017年5月
国民対話運営委員会設置
- 2017年6月
IGAD首脳会合で
再活性化プロセス表明
- 2017年8月
地域保護部隊展開開始
- 2017年12月
再活性化フォーラム開催，
敵対行為停止合意



(写真提供：UNMISS)



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (2) 要因

- 政治：指導者間，部族間の根深い相互不信
- 治安：治安組織の未整備，小型武器の拡散
- 行政：行財政諸制度の未整備，支援への依存
- 経済・社会：長年の内戦による伝統的秩序の脆弱化



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (3) 課題

- 南スーダン自身が主導し，国際社会の支援が得られる平和の実現



- ① 国内の和解：南スーダン政府と反政府勢力の間
- ② 国際社会との協調：南スーダン政府と国際社会，特に米国との間
- ③ 経済の安定：南スーダン政府と援助国・機関，特に I M F との間



2. 南スーダンの平和構築：何が問題なのか (4) 国際社会の取組

- 様々なアクターが関与・協力： I G A D (周辺諸国), A U, 国連, トロイカ (米・英・ノルウェー), E U, 中国, 日本…



- I G A D 主導で, 南スーダン諸勢力参加の下, 衝突解決合意実施のためのハイレベル再活性化フォーラムを開始
- 敵対行為停止合意を基盤に, 今後の推進が課題



3. 我が国の支援：何が強みなのか (1) 自衛隊①国連PKOの機能強化

- UNMISSの優先順位に基づきタスキングを着実に遂行, 質の高い成果
- UNMISSが効果的に任務を遂行する意義は大, これに対する多大な貢献で高い評価
- 特に, ジュバ衝突後の基地防護は安心を提供



(写真提供：防衛省)



(写真提供：防衛省)

3. 我が国の支援：何が強みなのか (1) 自衛隊②南スーダンの開発推進

- UNMISSの任務のための道路整備は、南スーダンの開発にも貢献
- 目に見える、質の高い、住民目線の活動と成果に対して、南スーダンの政府・国民から高く評価
- 更に、ODA-PKO連携で実施した様々な活動は、我が国ODAを基盤に、オールジャパンの効率的・効果的支援を実現



(写真提供：防衛省)



(写真提供：UNMISS)

3. 我が国の支援：何が強みなのか (1) 自衛隊③草の根の交流促進

- 自衛隊部隊は、太鼓、演武、各種スポーツ交流、出身地の祭りの披露、茶道など幅広い演目を持つ「マルチタレント集団」
- 住民目線での交流、相手に配慮した誠意ある姿勢で、南スーダンの人達を感動
- 日本と国連の双方に対する南スーダン人の理解と支持を得て、イメージを向上することに貢献



(写真提供：防衛省)



(写真提供：UNMISS)

3. 我が国の支援：何が強みなのか (1) 自衛隊④他国部隊・要員との連携

- UNMISSには約60カ国が軍事・警察要員を派遣，自衛隊の部隊・施設要員はその中で活動
- 自衛隊部隊の高い能力と規律は，通常任務や各種行事・交流の機会を通じて発信，UNMISSのモラル向上にも貢献
- 自衛隊部隊の側も，国際的な環境の下「他流試合」を行うことで，連携能力・コミュニケーション能力を向上



(写真提供：防衛省)



(写真提供：UNMISS)

3. 我が国の支援：何が強みなのか (2) JICA①インフラ整備

- JICAは2005年のCPA直後から平和構築支援を継続，効果的に案件を形成・実施
- その中でも，ナイル架橋事業「フリーダム・ブリッジ」は，群を抜いて高く評価，わかりやすく目に見える便益
- ジュバ水供給事業も住民の生活に密着，市内各所の工事は大きな宣伝効果
- ジュバ衝突で停止，再開への期待大



3. 我が国の支援：何が強みなのか (2) JICA②制度・能力構築

- 包括的農業マスタープラン、職業訓練、理数科教育、看護師・助産師学校、税関、公共放送局等の制度・能力構築事業を展開（諸スキーム活用）
- 代替産業、生計支援、社会サービス、ガバナンス等の基幹分野で、政府と社会に寄り添った国づくり
- ABEイニシアティブも、ビジネスと高等教育の機会が少ない現地ニーズに合致



(写真提供：JICA)



3. 我が国の支援：何が強みなのか (2) JICA③スポーツを通じた平和構築

- 南スーダン版国民体育大会「国民結束の日」を独立後初めて開催
- 世界で最も新しい国連加盟国のリオ・オリンピック参加も支援
- 国民の統合と和解というメッセージ性や、若者に夢と希望を与える効果あり
- 厳しい生活環境においても文化が重要と認識



3. 我が国の支援：何が強みなのか (3) 国際機関①人道から開発への移行

- 我が国の支援は、自立・自助努力、人間の安全保障のアプローチを重視、人道と開発の双方に貢献
- これを率先実行・発信し、パートナーシップを通じて
スケールアップすることが重要
- 比較的安定した地域での、回復・安定化支援
(UNDP, UNICEF, WFP, FAO, 他ドナーも連携)
- ミンカマン河川港整備
(UNOPS連携)



3. 我が国の支援：何が強みなのか (3) 国際機関②制度・能力構築

- 我が国は自立・自助努力を重視して制度・能力構築支援も幅広く実施、多くは人道と開発の双方に貢献、同様にスケールアップが課題
- 献血制度構築支援
(WHO連携)
- 入国管理 (IOM連携)
- 警察 (UNDP連携)
- 地方税制 (UNDP連携)
- リーダーシップ・マネジメント研修 (UNITAR広島)



3. 我が国の支援：何が強みなのか (3) 国際機関③邦人職員の活躍

- 国際機関邦人職員は、チームワークを重視する仕事振りで高く評価
- オールジャパンの連携支援強化・レジリエンス向上にも大きく貢献
- UNMISS, UNICEF, IOM, UNHCR, WFP, UNOPS, UNMAS等、多数が配置
- 女性が多い一方、男性も活躍、JPO出身や平和構築人材育成事業修了者も



3. 我が国の支援：何が強みなのか (3) 国際機関④ I C R Cと日本赤十字

- 国際赤十字委員会 (ICRC) は、当事者との信頼関係をベースに、国連より更に前線で人道支援を中心に独自の活動
- 我が国政府も支援、ただし日本の旗は使えないので レジリエンスは工夫が必要
- ICRC邦人職員に加え、日本赤十字から派遣される医師・看護師も参加



(写真提供：ICRC)



(写真提供：ICRC)

3. 我が国の支援：何が強みなのか (4) NGO①ジャパン・プラットフォーム

- 治安の悪化により、ジャパン・プラットフォームは、出張ベースの支援から遠隔支援へ移行
- 現地NGOの能力強化
(PWJ, JCCP)
- 国際NGO内の連携
(WVJ)
- 供与式では、大使館のみならず自衛隊とも連携



3. 我が国の支援：何が強みなのか (4) NGO②草の根・人間の安保無償

- 大使館は、現地NGOを対象に草の根・人間の安全保障無償を供与
(年間数件程度)
- 手間がかかる一方、費用対効果は大、良いパートナーと組むことが特に重要
- 現地NGOを対象にした説明会の開催は大好評、我が国のアプローチを効果的に伝達



3. 我が国の支援：何が強みなのか (5) 政治プロセス

➤国連安保理

－ 2016年～17年は国連安保理非常任理事国

－ 議論に積極的に貢献，2016年末，制裁決議案に棄権



(写真提供：国連)

➤国民対話支援

－ 国民対話が包摂的となるよう，国連と緊密に連携しつつ実施

－ 我が国は主要ドナーとして，国民対話推進に大きな役割



4. おわりに：これからの課題は何か

➤全般・共通点

－ 自立・自助努力を重視する主要国である日本が関与し，内外の関係者を橋渡しする意義大，「使命」

➤国際平和協力

－ 今回の大きな成果，高い評価を踏まえ，今後のあり方を検討

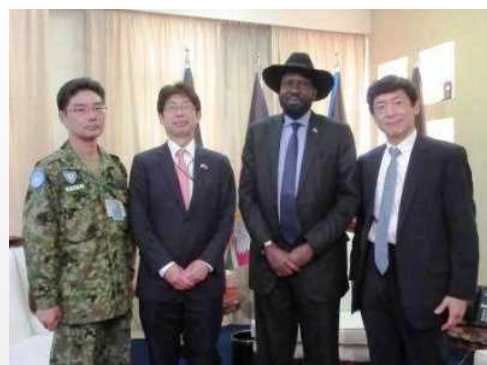


➤人道・開発支援

－ 人道から開発への移行など日本型アプローチを強化，スケールアップ

➤政治プロセス

➤ 各種支援を通じた我が国への信頼を生かして独自の貢献が可能



講師連絡先

外務省中東アフリカ局アフリカ部・

国際協力局参事官,

TICAD担当大使

紀谷昌彦 (きや・まさひこ)

03-5501-8000 (内線2760)

masahiko.kiya@mofa.go.jp

